



カボチャの病害虫防除対策



半促成やトンネル作型のカボチャ栽培では、降雨日が多く多湿条件が続くと疫病やべと病などが多くなり、一方で晴天が続くとうどんこ病やアブラムシ類、コナジラミ類などが多く発生する傾向があります。多発生してからでは薬剤防除の効果が劣りますので、早期発見、早期防除に努めて下さい。

特に疫病では果実に発生すると大きな減収につながりますので、予防散布を行いましょう。



写真1 うどんこ病



写真2 アブラムシ類



写真3 オンシツコナジラミ(成虫)



写真4 ウリハムシ(成虫)



写真5 疫病

防除対策のポイント

- 適切な整枝に努めます。被覆を開放したら予防散布を検討し、十分量の薬液で、葉裏や下葉、株元にもよくかかるように散布します。
- 降雨が続くようなときは、圃場の排水を促す溝などを掘り、浸冠水や停滞水を回避して下さい。
- 果実は直接土に接しないように、着果後20日目頃から順次に敷物などを行います。



表1 うどんこ病の主な防除薬剤

(令和7年4月23日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類 ※1
イオウフロアブル	500 倍	発病前～発病初期 / —	M02
シグナムWDG	1,500～2,000 倍	収穫前日まで / 3回以内	7 と 11
トリフミン水和剤	3,000～5,000 倍	収穫前日まで / 5回以内	3
フルピカフロアブル	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 4回以内	9
モレスタン水和剤	2,000～4,000 倍	収穫前日まで / 3回以内	M10
ダコニール1000 ※2	1,000 倍	収穫7日前まで / 3回以内	M05
ベルコート水和剤	1,000～2,000 倍	収穫7日前まで / 4回以内	M07

※1：各表の分類欄は、FRAC または IRAC コードを記載。(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避ける。

表2 べと病、疫病の主な防除薬剤

(令和7年4月23日現在)

対象病害	薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類 ※1
べと病 疫病				
○ ○	アリエッティ水和剤	400～800 倍	収穫前日まで / 3回以内	P07
○ ○	ランマンフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 3回以内	21
○ ○	ダコニール1000 ※2	1,000 倍	収穫7日前まで / 3回以内	M05
○ ○	フォリオゴールド ※2	1,000 倍	収穫7日前まで / 3回以内	4 と M05
○ ○	プロポーズ顆粒水和剤 ※2	1,000 倍	収穫7日前まで / 3回以内	40 と M05
○ ○	ペンコゼブ(ジマンダイセン)水和剤	600 倍	収穫21日前まで / 2回以内	M03

表3 アブラムシ類、コナジラミ類、ウリハムシの主な防除薬剤

(令和7年4月23日現在)

対象害虫	薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類 ※1
アブラムシ類 コナジラミ類 ウリハムシ				
○ ○ ○	コルト顆粒水和剤	4,000 倍	収穫前日まで / 3回以内	9B
○ ○ ○	トレボン乳剤	1,000 倍	収穫前日まで / 3回以内	3A
○ ○ ○	モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000 倍	収穫前日まで / 2回以内	4A
○ ○ ○	サンマイトフロアブル	1,000～1,500 倍	収穫3日前まで / 2回以内	21A
○ ○ ○	モベントフロアブル	2,000 倍	収穫7日前まで / 3回以内	23

※2: 有効成分 TPN が含まれているので、総使用回数(3回)を超えないように使用する。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 宮農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。